

説教題：「神は招いておられます」

聖書箇所：テサロニケの信徒への手紙 I 2章1-12 (374頁)

説教者：秀島行雄牧師 招詞：讚美歌93-1-14 交読詩編：詩編119編97-104節 (136頁)

讚美歌：83/413 (キリストの腕は) /414 (せかいの友と) /483 (わが主イエスよ、ひたすら) /27

「今週の聖句」 〔わたしたちは…あなたがたに…神の御心にそって歩むように…勧めたのでした。〕

御自身の国と栄光にあずからせようと、神はあなたがたを招いておられます。〕

(テサロニケ前書2：11-12)

「牧師室の窓」 「秋進み銀杏(ぎんなん)の実を手に置いて若葉青葉の青春思う」

「七五三祝いし子らの背は伸びて学べや深く生きる力を」

(1)皆様おはようございます。今年の5月ゴールデンウィークから読み始めましたエフェソの信徒への手紙全部で6章を先月10月で読み終わり、今月からは、テサロニケの信徒への手紙Iを読み始めました。テサロニケの信徒への手紙Iは音読が長いので、省略してテサロニケ前書とも呼びます。テサロニケ前書は全部で5章に亘って記されています。今回は第2回目で、第2章の前半を読み進めて参ります。

まずは前回同様に、聖書の一番後ろにある地図帳を見てみましょう。地図帳の8頁と9頁です。アジア大陸の西の涯黒海があり、地中海があります。黒海を先に進むと、現在戦争が行なわれているウクライナに至ります。地中海の内、トルコとギリシャに面している海域をエーゲ海と言います。余談ですが、日本の瀬戸内海を臨む岡山県の牛窓地区を日本のエーゲ海と地域では呼んでいます。海が穏やかで美しく、瀬戸内の島々の美しい風景、多島美が広がっています。パウロたちは船に乗って、ギリシャ神話のトロイの遺跡の場所に近いトロアスからエーゲ海を渡って行きます。

(2)扱て、前回申しあげました様に、テサロニケ前書の1章1節には「(1:1)恵みと平和が、あなたがたにあるように。〕と書き始められています。最後の5章の17節には「(5:17)絶えず祈りなさい。〕と書かれています。何故、「恵みと平和」が「絶えず祈ること」になるのでしょうか。その謎解きが今回のテサロニケ前書を読む主題・テーマになります。この謎解きが皆様にとってどの様になるのかお楽しみ下さい。

先週、謎解きのヒントを申しあげましたが、謎解きには、風景画や静物画の下絵・デッサンを描く時や、算数の面積計算・角度計算を行なう時の様に、「補助線を引く」ことが大切です。補助線を引いて考えると言うことは、日常生活で様々な問題に右往左往する時にも応用することが出来ます。

パウロはテント造り職人と言う技術者です、問題が発生したら様々な工夫をして解決しようとした人物です。問題が起きたら、書いて整理し、補助線を引いて解決を図るのです。

頭の中だけで考えても頭の中に消えてしまうだけです。聖書を読む時も、聖書の話を書く時にも、補助線を引いて御言葉に親しんで下さい。

(3)本日の聖書箇所、テサロニケ前書2章1節2節を読んでみましょう。〔(2:1)兄弟たち、あなたがた自身が知っているように、わたしたちがそちらへ行ったことは無駄ではありませんでした。

(2:2)無駄ではなかったどころか、知ってのとおり、わたしたちは以前フィリピで苦しめられ、辱められたけれども、わたしたちの神に勇気づけられ、激しい苦闘の中であなたがたに神の福音を語ったのでした。〕

ここにはパウロたちがこのテサロニケに来るまでに大変な苦勞があったことが記されています。この1節2節の経緯・いきさつは使徒言行録16章11節以降に書かれています。簡単に言いますと、アジア州のトロアスから船に乗ってエーゲ海を渡りヨーロッパのフィリピ(以前の言葉で言えば、ピリピ)の町に行きました。キリスト教がヨーロッパに伝えられた歴史的場面は、ネアポリスの港に到着し、ローマの植民都市フィリピから始まりました。フィリピでは紫布を販売するリディアと言う名の婦人がパウロの話す主の福音に耳を傾け、リディアもその家族も洗礼を受けました。併し乍ら、伝道が続いている中で金銭の利益を優先する古い師グループから反感を受けました。ローマ市民を混乱させているとの告発を受けてローマ当局の牢獄に閉じ込められました。真夜中に地震が起きて牢獄の扉が壊れましたが、パウロとシラスは牢獄の管理役人を助けました。助けられた役人とその家族は洗礼を受け、ローマ当局の高官はパウロとシラスを釈放しました。フィリピでの身に危険が及ぶ日々の一部始終と伝道の状況は使徒言行録第16章をお読みになって下さい。単に文字として読むのではなく、先程申し上げました様に、読み進む聖書の文章の中に、ご自分で補助線を入れて読み解くと、ご自分の実体験として読むことが出来るでしょう。パウロとシラスはお世話になったリディアや洗礼を受けた人々に別れを告げて、フィリピを離れてテサロニケに着きました。

2章1節には「無駄ではありませんでした」と書かれており、2節には「わたしたちは以前フィリピで苦しめられ、辱められたけれども、わたしたちの神に勇気づけられ、激しい苦闘の中であなたがたに神の福音を語ったのでした。」とも書かれています。パウロの言葉の、このあい反する中で連続性を私たちは見過ごしてはなりません。補助線をしっかりと引いて結び付け、人生を生きる考え方、針と糸と鋏の裁縫道具として身に着きたいものです。

(4) 続く3節と4節は、表と裏とを一体化した「2面一体の構造」になっています。パウロたちの伝道が3節では「迷いや不純な動機…ごまかし」ではないと言うことを、この世の物差し・測定基準で話しつつ、4節では「神に認められ、福音をゆだねられている…わたしたちの心を吟味される神に喜んでいただく」と神の側からの測定基準に沿って説き明かす・証明しようとしているのです。この考え方は大切です。この世の基準で(例えば、ランク付けや、金額や、能力で)自分自身や他者を測定する・判断することが求められている人間の社会にあって、神の基準で自分自身を測定する、判断することが重要、大切なのです。聖書を読む、教会の礼拝に集うことは、自分の姿を「姿見の鏡」に映し出し、神の声を聞くことに他なりません。

3節に書かれている「不純な動機」とは何でありましょうか。「不純な動機」とは、自分自身にのみ利益を求めることに他なりません。私たちの人生が「迷いや…ごまかし」の中で過ごして良いのでしょうか。4節には、ここは重要です。しっかりと聞き下さい。4節には、「神に認められ…わたしたちの心を吟味される神に喜んでいただく」と書かれています。「認められ」る、「吟味される」とは原文のギリシア語では元々の意味が同じで、「検査する・テストする・正しく判断する」と言う意味です。私たちが夫々の人生の中で目指すべきものは4節に書かれている様に「神に喜んでいただくため」であり、5節に書かれている様に「神が証ししてください」る生活を、人生を生きることであります。

(5) 5節～12節には、苦勞に苦勞を重ねたパウロの心の叫びが記されています。働き詰めて限界に至る程であった者が語ることが出来る言葉であります。よくよく読んでみますと、パウロの恨みつらみまでが記されています。パウロは我を忘れて懸命に伝道に、そして、生活維持のために働いたことが伝わってきます。かいつまんで読んでみましょう。6節「人間の誉れを求めませんでした」、8節「神の福音を伝えるばかりでなく、自分の命さえ喜んで与えたいと願ったほどです。あなたがたはわたしたちにとって愛する者となったからです。」、9節「わたしたちは、だれにも負担をかけ

まいとして、夜も昼も働きながら、神の福音をあなたがたに宣べ伝えたのでした。」ここには、「経済的な自立をするために、働いて賃金収入を得つつ伝道をしてきた」ことが書かれています。人間は食べるための収入を、生きて生活するための収入を得なければなりません。旧約聖書の創世記が語っている様に、人間は額に汗をして労働し、生きねばならないのです。併し、それと同時に、神は人間に生きる喜びを与えてくださいました。聖書を読むことはその生きる喜びを私たちに伝えているのです。10節にはパウロは声を振り絞っていますね。10節を見てみましょう。

〔(2:10)あなたがた信者に対して、わたしたちがどれほど敬虔に、正しく、非難されることのないようにふるまったか、あなたがたが証しし、神も証ししてくださいます。〕ここまで読んでいきますと、私たちもパウロを見習ってみては如何でしょうか。パウロの諦めない精神、不撓不屈の精神、チャレンジ精神を多少なりとも受け継ぎたいものです。パウロは単なる反骨精神ではありません。現状を出来る限りしっかりと把握し認識して、出来ることを発見し、工夫して実行するのです。

(6)余談ですが、私もこの世の中にそれなりに長く生きて参りました。その人生の大部分をお金に関する金融の実務や法律、会計学、経済・経営の分野で生きていました。

人間の生命維持に血液の循環が不可欠の様に、人間が暮らしてゆく社会には金融と言うお金の制度・システムが不可欠です。先月10月の神学校日礼拝では長く訪問看護師をされた神学生が礼拝説教(奨励)をされました。人間の生命を間近に接してこられた方のお話をお伺いしました。

人体の中に血液が流れ・循環するように、社会構造の中にはお金が詰まることなく・循環しなければなりません。

今般の政府の交代により新内閣の下(もと)で経済政策に関する検討・質疑が行なわれています。財政および国債への対応は困難の中にありますが、将来の世代に対してしっかりと施策し責任を取る政治を目指し、行なって頂きたいです。

先日、私と家内の家の夫々の墓前に子供たちファミリーを呼んで、先祖への墓参を行ないました。ある孫から質問を受けました。それは、これからの時代に、チャットGPT・生成AIの時代にどの様に生きるか、学んでゆくのかと言う問いです。私は次のように答えました。生成AIは存在する文章から抽出し合成し、配列することを得意としますが、人間は学んだ知識から夢を描くことが出来ます。夢を追い求め実現しようとするエネルギーが与えられている。その為には、学ぶべきことを学び、工夫すべきことを工夫することが大切、出来る限りに、やってみなさい、と伝えました。

…生物の、人間の生存期間には限度があり、私たちも一定の年数が経過すれば、神のもとへと召されて行きます。私は今回の内臓摘出手術でそのことをはっきりと感じました。そんなこともあって、手術をして頂きました病院に対して細(ささ)やかな寄付をしました。病理研究への貧者の一灯です。私には精神的な薬になります。数日前に、私の趣味仲間の友人が訪ねて来て暫しの間話しました。その友人も内臓の手術を受けましたので、病院や社会に寄付をすることも大切と提言、申し上げました。

(7)最後に、11節12節を見てみましょう。〔(2:11)あなたがたが知っているとおり、わたしたちは、父親がその子供に対するように、あなたがた一人一人に(2:12)呼びかけて、神の御心にそって歩むように励まし、慰め、強く勧めたのでした。御自身の国と栄光にあずからせようと、神はあなたがたを招いておられます。〕ここには11節の「父親がその子供に対するように」、12節の「呼びかけて、神の御心にそって歩むように励まし、慰め、強く勧めた」と続いています。これは7節8節に書かれている〔(2:7)…ちょうど母親がその子供を大事に育てるように、(2:8)…あなたがたをいとおしく思っていたので、神の福音を伝えるばかりでなく、自分の命さえ喜んで与えたいと〕

願ったほどです。あなたがたはわたしたちにとって愛する者となったからです。]と対(つい)になっています。「母親の願い」そして「父親の励まし」が分かり易く書かれています。皆様のお父上様、お母上様は如何(いかが)であらせられましたでしょうか。私は毎朝毎晩、父母の遺影に頭(こうべ)を垂れて、至らぬ子供であったことのお詫びと、ありがとうございますの感謝を述べています。

最後の最後に12節の御言葉を見てみましょう。〔(2:12)呼びかけて、神の御心にそって歩むように励まし、慰め、強く勧めたのでした。御自身の国と栄光にあずからせようと、神はあなたがたを招いておられます。〕パウロは神の国が来ることを確信していました。

信仰とは、科学によって説明されるものではありません。信仰とは生きる力、原動力、エンジンであります。私たちには神の国の入口が目の前にあるのです。その信仰によって私たちは自身の人生をいい加減に、不誠実に歩むことなく、しっかりと歩もうと決意を新たにします。

「神はあなたがたを招いておられます」この一言が私たちの道しるべとなることでしょう。

・・・お祈りします。

イエス・キリストの主なる神様。私たちはあなたの御恵みによって生かされていることに感謝いたします。人生の辛い日々にも、安らかな時にもあなたに向かって祈ることが出来ます様にお支え下さい。神が創造されましたこの地球上に生きる一人一人に平安・平和・希望が与えられますように。食べ物が乏しい人々に、災害や戦争の只中にある一人一人に慰めがありますように、お守りください。私たちに知恵と勇気をお与え下さい。

教会に連なる一人ひとりに、地域で生活している一人ひとりに、主なる神の御恵みと平安がありますように。

イエス・キリストの御名によって祈ります。 アーメン